
氷帝との試合

楓 紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

氷帝との試合

【Nコード】

N7371H

【作者名】

楓 紅

【あらすじ】

カルピンスの続きです！久々の更新なので、会話や、話し方が多々、代わってる所があるかもしれませんが・それでも見て下さる方は、注意してみてください！

カルピン事件が終わった後、青学は、氷帝との試合日になった。

国光「望月。体調が悪そうだが、大丈夫か？」

「はい…大丈夫です；」

飛鳥は、越前との関係が深まったため、腰が痛いのです。

秀一郎「それにしても、越前は遅いな；」

英二「オチビの場合、試合の日に限って、寝坊してそうだな。」

ケラケラと笑い冗談を言う、菊丸先輩だが、シャレにならない。

武「何度も電話してるんですが、出ないんですよね；越前の奴；」

「案の定、寝坊だったりして；」

飛鳥には、越前が寝坊した理由がおおよそ、想像できたが、言わずに呟く。

景吾「よお！手塚。お前の所の、新人はどこにいるんだ？」

「！」（跡部さん；）

飛鳥は、跡部を見やり、レギュラー陣の背後に隠れる。

景吾「ああん？なんだ。噂の一年生がいらないじゃねーの。」

レギュラー陣を眺めて告げる跡部。

すると、突然、何かの音楽がそこに鳴り響いた。

景吾「なんだ？」

「あ；すみません；俺です；」

飛鳥の携帯が、珍しく、マナーモードじゃなかった所為で、跡部に
ばれたが、そんな事を気にせずに、人気を避けて電話に出る。

「もしもし？越前？！； 何やってるんだ？！お前！」

リョーマ『そんなの、一番、飛鳥がわかってるじゃん。』

「馬鹿野郎！／＼／ 本当に寝坊するなんて、大馬鹿じゃねーか！」

リョーマ『・・・ごめん。本当に寝坊すると思ってなかったから。』

「それは、良い！今、何処に居るんだ！」

小声で、越前に居場所を問いかける飛鳥。

景吾（あいつ・・・この間の。）

跡部が、飛鳥を見ているとも知らずに・・・。

リョーマ『そっちに着くのは、10分はかかりそう。』

「?!10分?!メンバー登録は後、1分を切ったんだぞ?!」

リョーマ『・・・ごめん。』

「・・・嘘。越前が無事ならいいんだ。こっちはなんとかする。だから、早く来い。」

リョーマ『了解。・・・ねえ。飛鳥?』

「?ん?なんだよ?」

リョーマ『I LOVE YOU。』

「?!/// さつさと来い!///」

携帯を切り、マナーモードにして、手塚部長の元に戻る飛鳥。

国光「望月。誰だったんだ?」

「越前です;やはり寝坊でした;」

秀一郎「それで?今、何処だった?」

「場所までは言っていなかったんですが、10分ほど掛かるようです;」

武「それじゃ、受付に間に合わないじゃないか!;」

「はあっ;すみません;」

隆「なんで、飛鳥が謝るんだい？」

「え？いえ；別に；」

苦笑しながら、ごまかす飛鳥。

国光「とにかく、越前の代わりが居ないと、登録できないで負けだ。」

「こんな時に堀尾たち、ジュースを買いに行ってるし！；俺、読んできます！」

そう言つて、走り出そうとした飛鳥の手を、不二が掴む。

周助「飛鳥が、越前の代わりをすれば良いじゃないか。」

「・・・俺ー？！いやいやいや；無理です；無茶です；」

周助「時間ないんだし、マネージャーなら、その位、体張らなきゃね？」

「・・・マジですか？；」

英二「良いにや！それ！俺、飛鳥が、ベンチに居てくれるなら張り切っちゃうもんね！」

「いやいやいや；英二先輩；最初から、張り切ってください；」

武「飛鳥に拒否権はねーな。ねーよ。」

そう言いながら、桃城先輩が、越前がいつも被ってる帽子を飛鳥に被せる。

「うう・ばれたって、俺の所為にしないで下さいよ！」

帽子を深く被りながら、先輩たちに怒鳴りつける。

先輩たち（可愛いなあー。）

先輩たちの心は一致団結していたとかしてないとか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7371h/>

氷帝との試合

2010年10月9日15時21分発行